



キーパーソンとその役割

食品科学研究会の歴代部員

模擬株式会社SUISEI-FACTORYを運営。新たな部員は毎年作成される「活動記録簿」により、これまでの活動を把握した上で3年間の活動を積み重ねることができる。また、卒業生の指導体制も確立されており、技術や知識が伝承されている。

安川三和氏(教諭・食品科学研究会の2代目顧問)

平成24(2012)年から顧問を務める。日本学校農業クラブ(FFJ)を指導の中心とし、2年で全国大会常連校に押し上げ2度の優勝(プロジェクト発表会)を勝ち取った。農業高校生の可能性を信じ地域の課題に挑戦し続けている他、農業教員育成に力を入れている。

注目すべき特徴及び効果

- 連携する生産者や企業等の現状確認と品質確認を定期的に行い、必要に応じて品質改良や技術講習を行い、継続的な支援を続けていること
- 地元白山市をはじめ近隣市と連携した商品開発を行い、これまでに開発・製造販売した商品は「はくさん米粉クッキー」など、約50商品。連携する生産者・企業・団体・行政・教育機関等は県内4市、県外5都県にわたり50事業所以上に及ぶこと
- 食品科学研究会自らも「はくさん米粉スイーツ」や「金沢ゆず果皮加工品」や学校給食向けのヤーコンの加工品を製造。年間150万円以上販売し、30万円程度の純利益を確保していること
- 国際的な衛生管理基準「HACCPの考え方に基づいた衛生管理」である第三者認証(JFS-B規格)を取得。この取得を目指したことで、食品化学コースの教職員が一丸となり、当クラブ活動の意義が顧問の教師以外にもより一層理解されることとなったこと

今後の展開

- 食品衛生法改正により令和3(2021)年6月から全ての食品事業者には「HACCPに沿った衛生管理」が義務化されることから、地域事業者の取組意欲が減退しないよう、アドバイスや本校でのHACCP体験の実施等具体的な支援を行っていきたい。



審査委員の評価

高校生によって継続的に多くの商品開発やコンサルティングを行っている。生徒や顧問の先生が入れ替わる中で継続する仕組みがよくできている。また耕作放棄地などの地域の課題に応じており、地域との連携ができている。

